

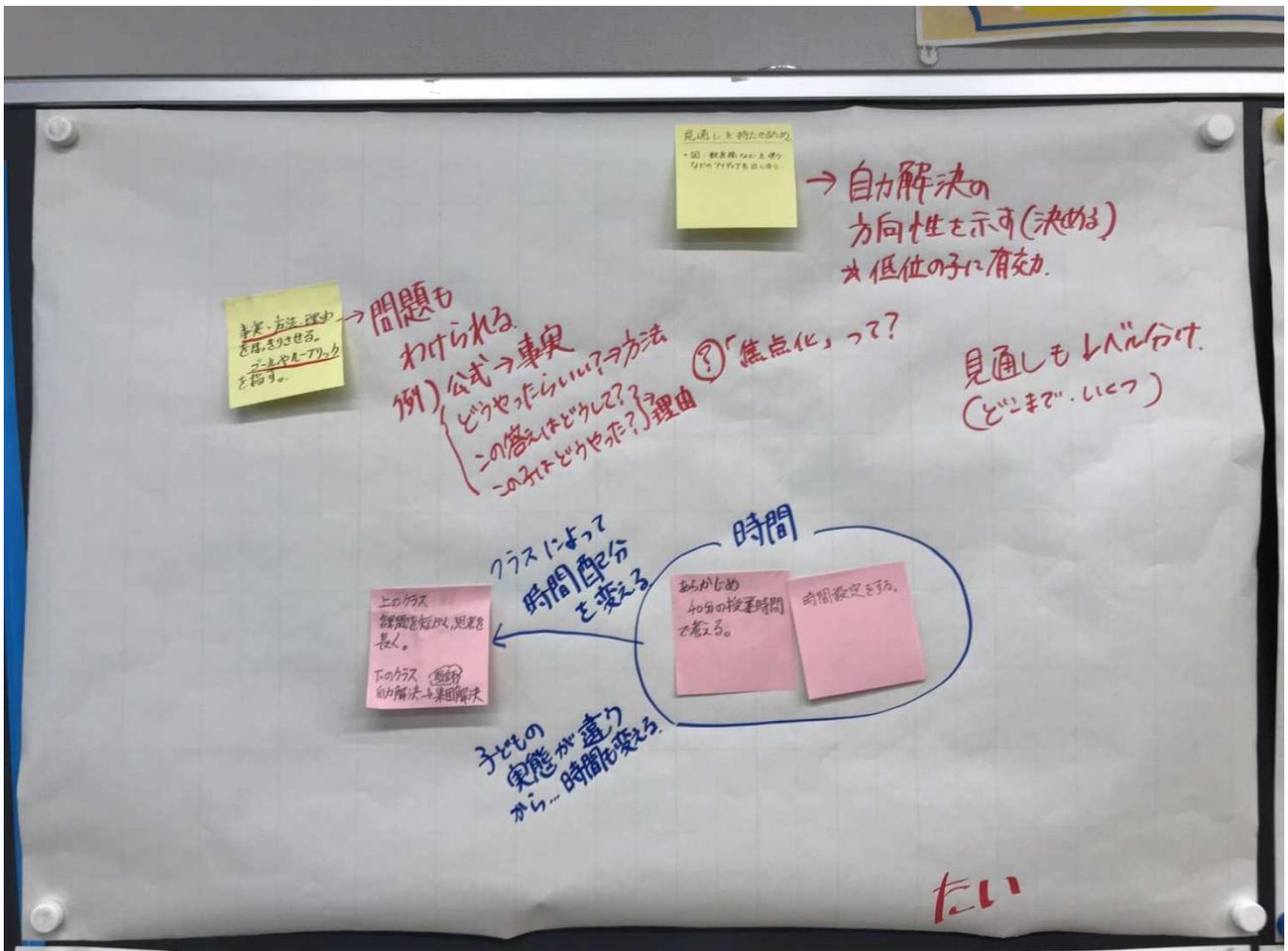
研修便り



研修部
平成30年
5月25日
vol.2

授業の焦点化を図るための見通しのもたせ方と、 授業の焦点化による習熟時間の確保について

お忙しい中、先日の研修「理論研修Ⅰ」に参加くださりありがとうございました。様々な学年が混ざったグループで話し合いをしていただき、沢山の意見をいただきました。今回研修した内容を意識して、習熟時間の確保を目指し、今週からの授業に生かしていきましょう。

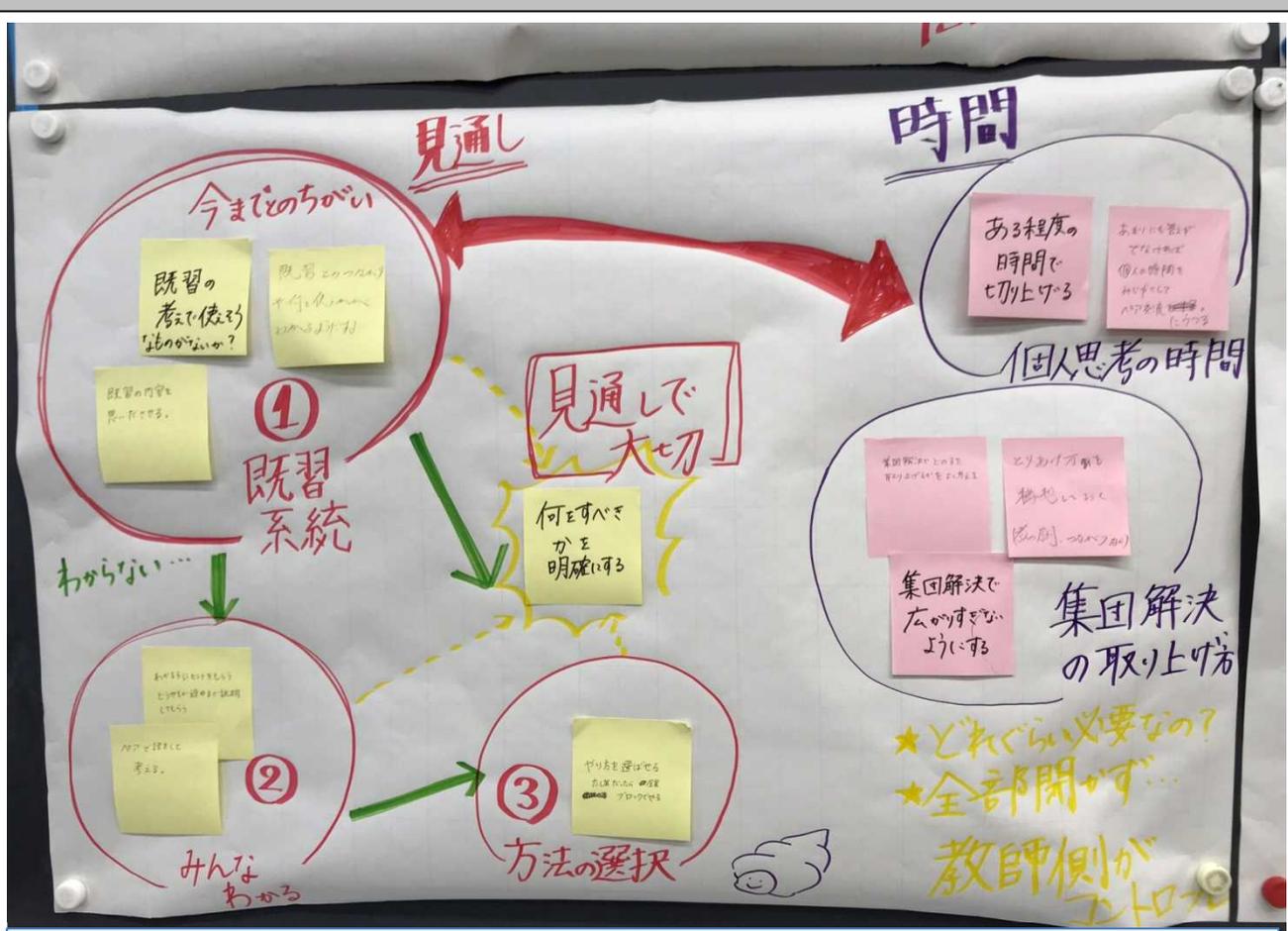


授業の焦点化を図る見通し

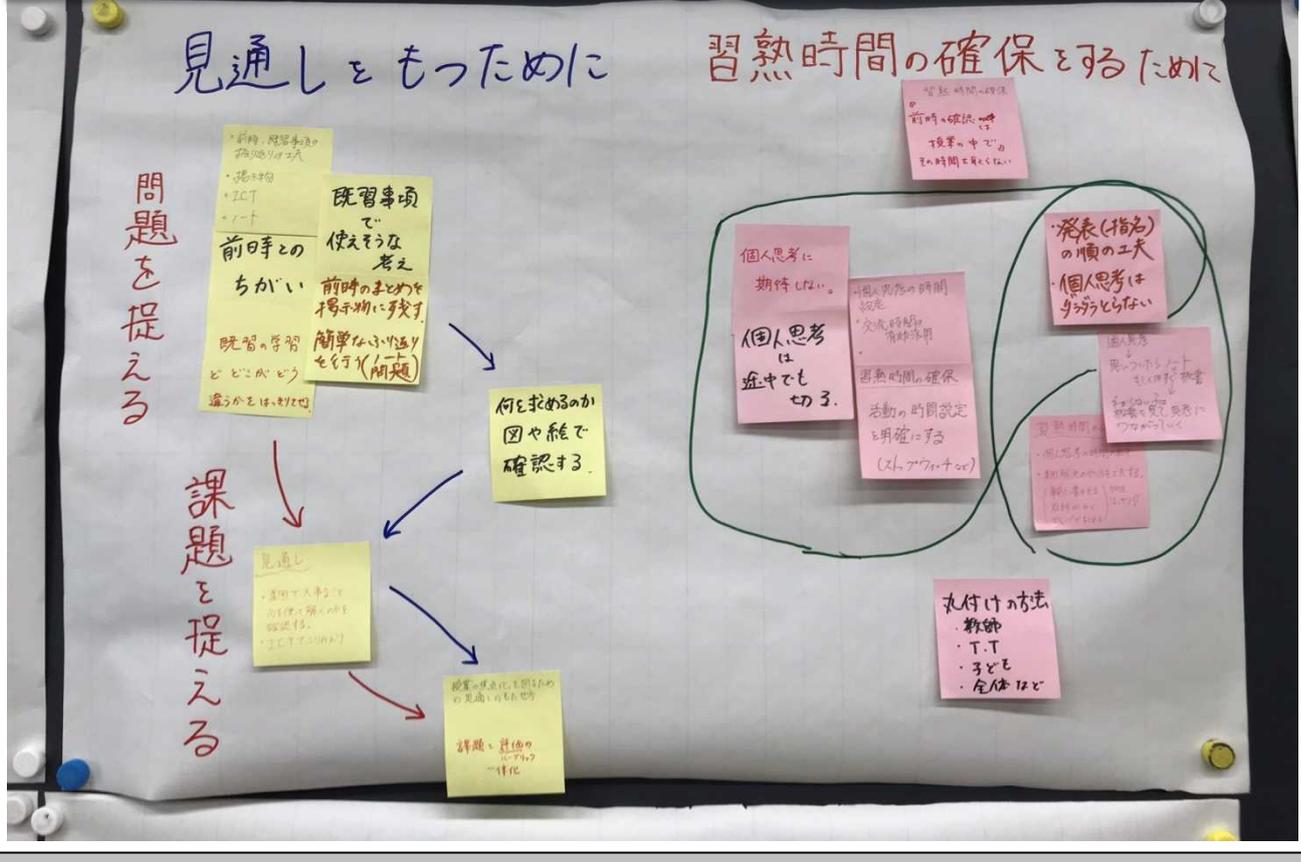
- ① 見通しも習熟度（児童の実態）によって、どこまでもたせるか変える。
（図や数直線も有効的）
- ② 個人思考にどの方法で考えていくのか、決める。
- ③ 問題で何が聞かれているかはっきりさせる。（事実、方法、理由）

習熟時間の確保

- ① 児童の実態に応じて、時間配分を変える。
（上位 G：課題短く、思考を長く。下位 G：自立解決短く、集団解決【教師】）



- 授業の焦点化を図る見通し**
- ① 今までとの違いを考え、既習の内容で使えることがないか考える。
 - ② 何を見通しにすればいいのか、ペアと話し合う、理解している児童と話す。
 - ③ 方法を選択させる→何をすべきか明確にする。
- 習熟時間の確保**
- ① 個人思考を時間で区切る。
 - ② 机間指導で誰を指名するか考えておき、集団解決を広げすぎない。

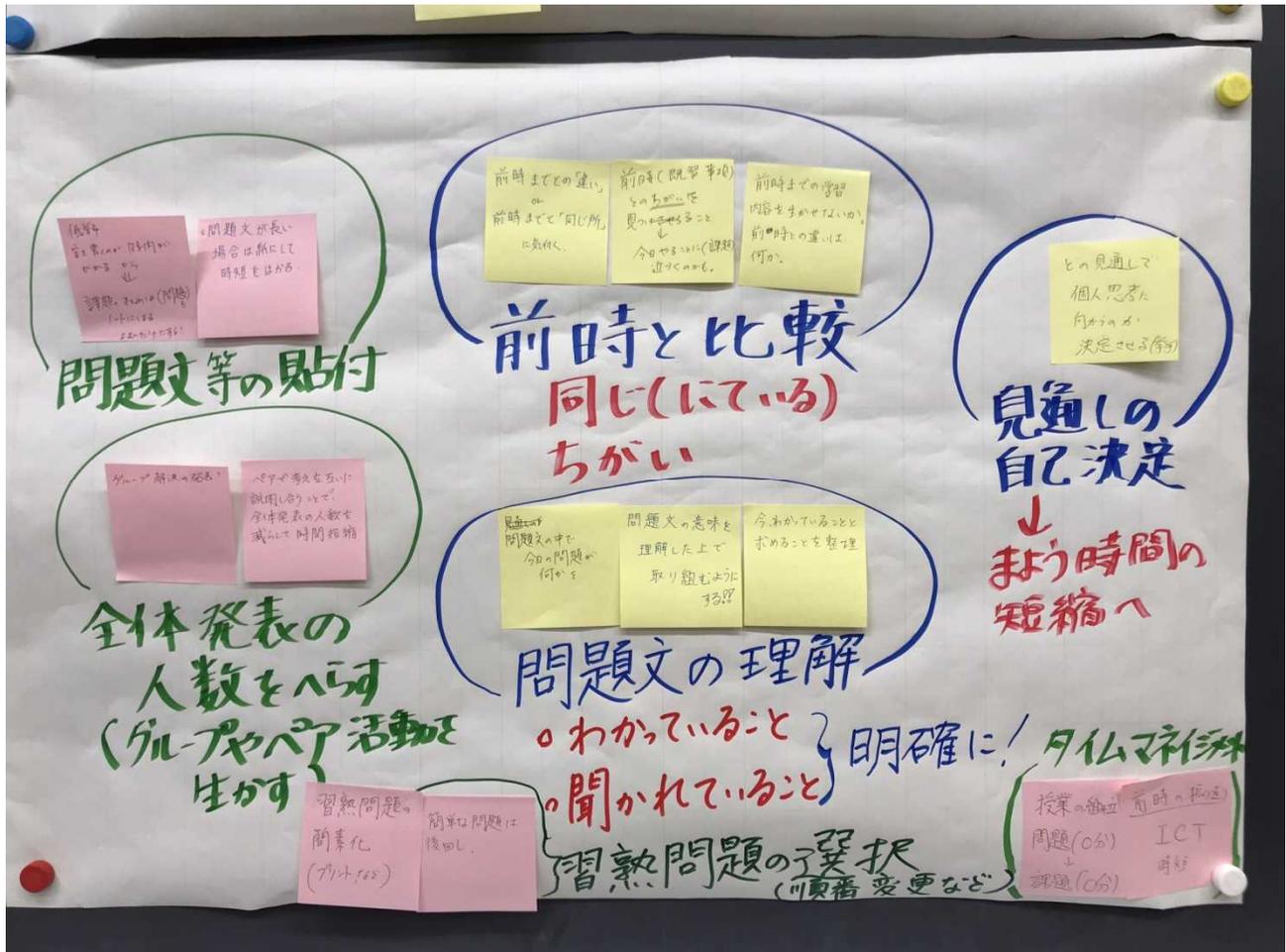


授業の焦点化を図る見通し

- ① 前時の既習事項の振り返りの工夫（ICT，教室掲示）
- ② 何を求めるのか，何を使って解くのか，図やICTを使って集団で確認する。

習熟時間の確保

- ① 活動時間の設定（ストップウォッチで計る）→時間を守る。
- ② 交流時間の工夫

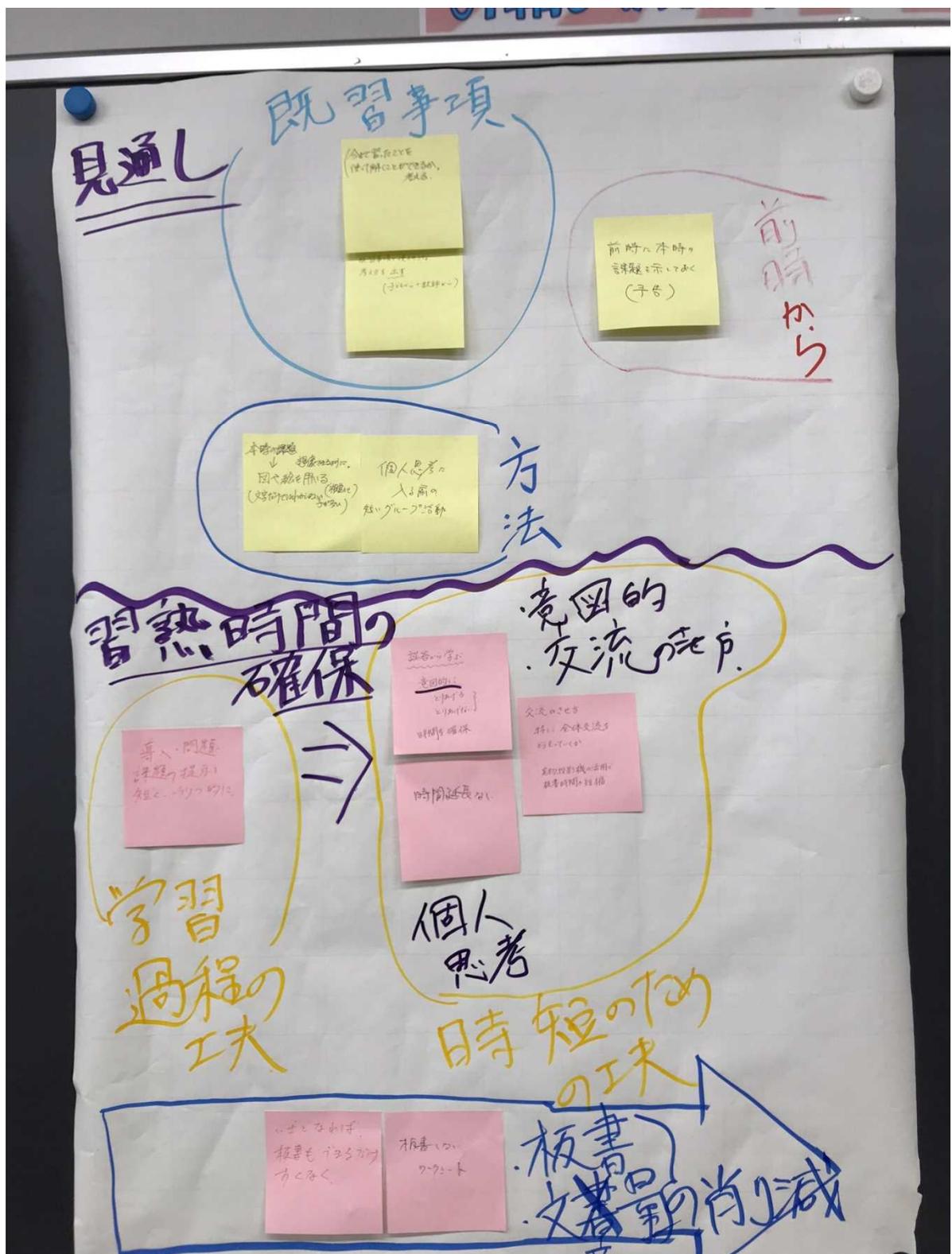


授業の焦点化を図る見通し

- ① 前時との同じところ，違いを気付かせる。
- ② 問題文の理解をさせる。
- ③ どの見通しで個人思考に向かうのか，決定させる。（迷う時間の短縮へ）

習熟時間の確保

- ① 問題文が長い場合は，紙を貼る。
- ② ペア・グループでの活動を生かして，集団思考の時の発表の人数を減らす。
- ③ 習熟問題の選択（順番の変更など）
- ④ 授業の時間配分を考えて，授業に臨む。（問題〇分→課題〇分→…）



授業の焦点化を図る見通し

- ① 既習事項で使えることがないか考える。
- ② 前時に本時の課題を伝えておく。(予告)
- ③ 個人思考の前に、ペアで見通しの交流。

習熟時間の確保

- ① 導入・問題・課題の提示を短く、効率的に。
- ② 誤答から学ぶ。(意図的に取り上げるのか、取り上げないのか)
- ③ 全体交流の仕方を工夫する(実物投影機の使用)
- ④ 書く文章量を減らす。(ワークシート)